

課程 全日制

教科	数学	科目	数学 I	単位数	3	学年	1	科	全学科
使用教科書	新編 数学 I（数研出版）								
補助教材等	スタディアップノート 数学 I（数研出版）								

### 1 学習の到達目標

数と式，図形と計量，2次関数及びデータの分析について理解し，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察する能力を培い，数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを活用する。

### 2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

○主体的に学習に向かい、自ら思考し、教員や他生徒との対話等も積極的に活用して理解に努める。  
○課題には、上記目標達成に向け粘り強くかつ計画的に取り組み、提出期限は守る。

### 3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	数と式，図形と計量，2次関数及びデータの分析について理解し，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察する能力を培い，数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを活用する技能を身に付ける。	数学を活用して事象を論理的・統合的・発展的に考察する。 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する。	数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度を養う。
主な評価方法	・定期考査（基礎的内容）	・定期考査（発展的内容）	・課題への取組状況

### 4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

学期	月	単元	教材	時数	学習内容	評価規準
一学期	4	式の計算	新編 数学 I (数研出版)	2	多項式の加法と減法	(a) (b) 中間・期末考査を観点別で作成。学期毎、考査の結果を ABC で評価する。基準は、考査の内容・平均点・標準偏差を鑑み学期毎に決める。
				3	多項式の乗法	
				3	因数分解	
				1	演習	
	5	実数		2	実数	
				3	根号を含む式の計算	
				2	演習	

一 学 期	6	1 次不等式	新編 数学 I (数研出版)	3 不等式の性質	(c) study-up ノートの取組 状況。
		集合と命題		2 1 次不等式	
1 演習					
1 絶対値を含む方程式・不等式					
2 集合					
3 命題と条件					
2 命題とその逆・対偶・裏					
2 命題と証明					
1 演習					
2 関数とグラフ					
2 <b>演習</b>					
二 学 期	7	2 次関数の 値の変化	新編 数学 I (数研出版)	5 2 次関数のグラフ	
				5 2 次関数の最大・最小	
	8	2 次方程式 と不等式		3 2 次関数の決定	
				1 演習	
	9	三角比		4 2 次方程式	
				5 2 次関数のグラフと x 軸の位置関係	
	10	三角形への 応用		6 2 次不等式	
				2 <b>演習</b>	
				3 三角比	
				3 三角比の相互関係	
	11	データの分 析		4 三角比の拡張	
1 演習					
2 正弦定理					
2 余弦定理					
3 正弦定理と余弦定理の応用					
2 三角形の面積					
2 空間図形への応用					
1 演習					
1 データの整理					
1 データの代表値					
3 データの散らばりと四分位数					
3 分散と標準偏差					
3 2 つの変量の間関係					
1 仮説検定の考え方					
2 <b>演習</b>					
三 学 期					

合計 105 時間

課程 全日制

教科	数学	科目	数学A	単位数	1	学年	1	科	全学科
使用教科書	新編 数学A（数研出版）								
補助教材等	スタディアップノート 数学A（数研出版）								

### 1 学習の到達目標

場合の数と確率，図形の性質について理解し，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察する能力を培い，数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを活用する。

### 2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

- 主体的に学習に向かい、自ら思考し、教員や他生徒との対話等も積極的に活用して理解に努める。
- 課題には、上記目標達成に向け粘り強くかつ計画的に取り組み、提出期限は守る。

### 3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	場合の数と確率，図形の性質について理解し，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察する能力を培い，数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを活用する技能を身に付ける。	数学を活用して事象を論理的・統合的・発展的に考察する。 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する。	数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度を養う。
主な評価方法	・定期考査（基礎的内容）	・定期考査（発展的内容）	・課題への取組状況

### 4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

学期	月	単元	教材	時数	学習内容	評価規準
一学期						
二学期						
三学期	12	場合の数	新編 数学A (数研出版)	1 2 2	集合の要素の個数 場合の数 順列	(a) (b) 中間・期末考査を観点別で作成。学期毎、考査の結果をABCで評価

三 学 期	1	確率	新編 数学 A (数研出版)	2	組合せ	する。基準は、考査の内容・平均点・標準偏差を鑑み学期毎に決める。 (c) study-up ノートの取組状況。
				2	事象と確率	
				2	確率の基本性質	
		3		独立な試行と確率		
		2		条件付き確率		
		2		期待値		
	2	平面図形		2	三角形の辺の比	
				2	三角形の外心・内心・重心	
				2	チェバの定理・メネラウスの定理	
		2		円に内接する四角形		
		2		円と直線		
		1		2つの円		
	空間図形	1	作図			
1		直線と平面				
2		空間図形と多面体				
		2	<b>演習</b>			

合計 35 時間

課程 全日制

教科	数学	科目	数学Ⅱ	単位数	4	学年	2	科	全学科
使用教科書	新編 数学Ⅱ（数研出版）								
補助教材等	スタディアップノート 数学Ⅱ（数研出版）								

### 1 学習の到達目標

いろいろな式、図形と方程式、三角関数、指数関数・対数関数、微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解し、事象を数学的に考察し表現する能力を養い、それらを活用する。

### 2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

○主体的に学習に向かい、自ら思考し、教員や他生徒との対話等も積極的に活用して理解に努める。  
○課題には、上記目標達成に向け粘り強くかつ計画的に取り組み、提出期限は守る。

### 3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	いろいろな式、図形と方程式、三角関数、指数関数・対数関数、微分・積分の考え方における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解し、事象を数学的に表現・処理する技能を身に付ける。	数学を活用して事象を論理的・統合的・発展的に考察する。 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する。	数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度を養う。
主な評価方法	・定期考査	・定期考査	・課題への取組状況

### 4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

学期	月	単元	教材	時数	学習内容	評価規準
一学期	4	式と計算  等式・不等式の証明	新編 数学Ⅱ (数研出版)	5	展開と因数分解	(a) (b) 中間・期末考査を観点別で作成。学期毎、考査の結果をABCで評価する。基準は、考査の内容・平均点・標準偏差を鑑み学期毎に決める。 (c) study-up ノートの取組状況。
				3	二項定理	
				5	多項式・分数式	
				3	恒等式	
				6	等式・不等式の証明	
				2	演習	
	5	複素数と2次方程式の解		3	複素数とその計算	
				3	2次方程式の解	

一 学 期	6	高次方程式	5 解と係数の関係 3 剰余の定理と因数定理 4 高次方程式 2 <b>演習</b>
二 学 期	7	点と直線	5 直線・平面上の点 6 直線の方程式
	8	円	3 円の方程式 3 円と直線 2 <b>演習</b>
	9	軌跡と領域	4 軌跡と方程式 5 不等式の表す領域
	10	三角関数	3 角の拡張 6 三角関数とそのグラフ 4 三角関数の性質
三 学 期	11	加法定理 指数関数	8 加法定理 6 指数の拡張 2 <b>演習</b>
	12	対数関数	4 対数関数 6 対数とその性質 3 常用対数
	1	微分係数と 導関数	3 微分係数 2 接線の方程式
	2	関数の値の 変化	6 関数の増減 5 不定積分
	3	積分法	4 定積分 4 定積分と面積 2 <b>演習</b>

合計 140 時間

課程 全日制

教科	数学	科目	数学Ⅲ	単位数	4	学年	3	科	全学科
使用教科書	新編 数学Ⅲ改訂版（数研出版）								
副教材	スタディアップノート 数学Ⅲ改訂版（数研出版）								

1. 科目の目標と評価の観点

目標	複素数平面、式と曲線、関数、極限、微分法・積分法についての理解を深め、知識の習得と技能の習熟を図る。また、事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばすとともに、それらを積極的に活用する態度を育てる。			
評価の観点	①関心・意欲・態度	②数学的な見方や考え方	③数学的な技能	④知識・理解
	複素数平面、式と曲線、関数、極限、微分法・積分法に関心をもつとともに、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、複素数平面、式と曲線、関数、極限、微分法・積分法における数学的な見方や考え方を身に付けている。	複素数平面、式と曲線、関数、極限、微分法・積分法において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	複素数平面、式と曲線、関数、極限、微分法・積分法における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。

2. 評価方法

評価方法・観察	①	②	③	④	具体的な項目
定期考査		○	◎	◎	学習内容の理解・表現
課題の提出	◎				学習の進歩の状況、過程・成果
学習状況の観察	◎				学習の主体性・授業への取組み

※表中の◎は観点の中でより重視するところです。

3. 学習にあたっての注意とアドバイス

<ul style="list-style-type: none"> <li>主体的に学習に向かい、自ら思考し、教員や他生徒との対話等も活用して理解に努める。</li> <li>課題は必ず提出すること。</li> </ul>
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

#### 4. 年間学習計画

		学習の内容	考查範囲	予定時数
一 学 期	4	関数	中間考查 左範囲まで	1 0
	5	数列の極限		1 0
	6	関数の極限		1 4
	7	微分法（導関数） 微分法の応用（導関数の応用）	期末考查 左範囲まで	1 4
二 学 期	8	積分法（不定積分・定積分）	中間考查 左範囲まで	1 4
	9			1 8
	10	積分法の応用（面積・体積）	期末考查 左範囲まで	1 8
	11	式と曲線（2次曲線）		1 8
三 学 期	12	式と曲線（媒介変数と極座標）	期末考查 左範囲まで	1 8
	1	複素数平面		6
	2			

合計 140 時間



課程 全日制

教科	数学	科目	数学B	単位数	2	学年	3	科	全学科
使用教科書		新編 数学B改訂版（数研出版）							
副教材		スタディアップノート 数学B改訂版（数研出版）							

1. 科目の目標と評価の観点

目標	数列、ベクトルについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図る。また、事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。			
評価の観点	①関心・意欲・態度	②数学的な見方や考え方	③数学的な技能	④知識・理解
	数列、ベクトルに関心をもつとともに、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数列、ベクトルにおける数学的な見方や考え方を身に付けている。	数列、ベクトルの考え方において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	数列、ベクトルの考え方における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。

2. 評価方法

評価方法・観察	①	②	③	④	具体的な項目
定期考査		○	◎	◎	学習内容の理解・表現
課題の提出	◎				学習の進歩の状況、過程・成果
学習状況の観察	◎				学習の主体性・授業への取組み

※表中の◎は観点の中でより重視するところです。

3. 学習にあたっての注意とアドバイス

<ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的に学習に向かい、自ら思考し、教員や他生徒との対話等も活用して理解に努める。</li> <li>・課題は必ず提出すること。</li> </ul>
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

#### 4. 年間学習計画

		学習の内容	考査範囲	予定時数
一 学 期	4	等差数列	中間考査 左範囲まで	5
	5	等比数列		5
	6	いろいろな数列の和	期末考査 左範囲まで	7
	7	階差数列		6
二 学 期	8	1年の復習	中間考査 左範囲まで	1 5
	9	【数学A 整数の性質】		
	10	<平面上のベクトル> ベクトルとその演算	期末考査 左範囲まで	1 6
	11	ベクトルの成分  ベクトルの内積		
三 学 期	12	位置ベクトル、空間ベクトル	期末考査 左範囲まで	3
	1	<空間のベクトル>		1 3
	2			
	3			

合計 70 時間

課程 全日制

教科	数学	科目	数学探究	単位数	2	学年	3	科	全学科
使用教科書 副教材		オーダー問題集 数学探究 （数研出版）							

1. 科目の目標と評価の観点

目標	1 学年と2 学年で学んだ高校数学の内容の定着を図り、それらを的確に活用する実力を伸ばすとともに、数学的な見方・思考方法を身につける。			
評価の観点	①関心・意欲・態度	②数学的な見方や考え方	③数学的な技能	④知識・理解
	1・2 学年で学んだ内容を活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	1・2 学年で学んだ内容を通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。	数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。

2. 評価方法

評価方法・観察	①	②	③	④	具体的な項目
定期考査		○	◎	◎	学習内容の理解・表現
課題の提出	◎				学習の進歩の状況、過程・成果
学習状況の観察	◎				学習の主体性・授業への取組み

※表中の◎は観点の中でより重視するところです。

3. 学習にあたっての注意とアドバイス

<ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的に学習に向かい、自ら思考し、教員や他生徒との対話等も活用して理解に努める。</li> <li>・課題は必ず提出すること。</li> </ul>
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

#### 4. 年間学習計画

		学習の内容	考査範囲	予定時数
一 学 期	4	数と式		7
	5	図形と計量	中間考査 左範囲ま で	7
	6	場合の数・確率		7
	7	図形の性質	期末考査 左範囲ま で	6
二 学 期	8	複素数と方程式		6
	9	図形と方程式		8
	10		中間考査 左範囲ま で	8
	11	三角関数 指数関数・対数関数	期末考査 左範囲ま で	8
三 学 期	12	微分・積分		7
	1	数列	期末考査 左範囲ま で	6
	2	ベクトル		

合計 70 時間